

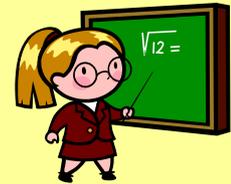
発達の気になるこどもの 家庭療育支援講座



子どものこころの診療拠点病院推進室 ペアレントサポート研究会 陽なた

本日のメニュー

- オリエンテーション
- 自己紹介
- お茶タイム
- サポートブック
- グループワーク
サポートブック作成
- 次回のお知らせ



オリエンテーション

- この講座は、お父さんやお母さんといっしょに子どもさんの家庭療育の方法について学んでいこうというものです。
- 実際に家庭で役立てて頂くために、講義だけでなく、簡単なワークをおこなったり、グループに分かれて話し合いをしたりしながら進めていきます。

親はわが子の専門家

子どものことを一番よく知っているのは親です。
子どもに合わせた支援をいっしょに探しましょう。

支援を服にととえると・・・



既存の支援法



オーダーメイド
の支援法に

この講座のプログラムについて

- この講座で行っていく内容は「ペアレント・トレーニング」というプログラムです。
- ペアレント・トレーニングは、1960年代から米国で開始されました。
- 発達障害児の治療効果をより高めるために導入され、大きな効果をあげてきました。

この講座の目的

- 子どもの発達の状態を理解すること
- 子どもとコミュニケーションを楽しめるようになること
- 支援の方法を人に伝えられること
- 子育て仲間ができること
- 子どもを成功に導く視覚支援や環境調整の方法を知ること
- 発達を促す適切な支援の方法を知ること

ルール

原則して6回参加です。
無断欠席や遅刻をしないようにしましょう。
ホームワークはなるべくしてくるようにしましょう。
個人の大切な秘密を守りましょう。

自己紹介

- みんな、この講座で一緒に勉強する仲間です。
- 自分の自己紹介をしてください。
住んでいる地域、好きなものや活動…など
- 子どもの紹介をしてください。
我が子自慢!!子どもさんのことをみんなに聞いてもらいましょう。

グループワーク

サポートブックを
作ってみよう!

サポートブックとは?

サポブ(サポートブック)

初めて子どもと接する人に対して、子どものことを知ってもらい、子どもが安全に楽しく過ごすためのツールです。

年齢の大きいお子さんが、自分のことを誰かに理解してもらおう時にも便利です。

サポブを作成することは、普段気にとめていなかった子どもの行動や対応を整理するよい機会にもなります。

サポブを作るときの注意

保護者が作る場合

- ① 作成の責任者は保護者です。最終チェックは保護者が行い、記入した内容に責任を持ってください。
- ② 子どもが見たときに、嫌な思いをすることのない内容であるかチェックしましょう。



サポブ作成のコツ

- ① 誰が見てもわかりやすいように具体的な言葉で
- ② たくさん書きすぎない。伝えたいことの優先順序を考えながら書く。
- ③ 「～してください」よりも「～すると落ち着くと思います・喜びます」「家では～しています」など子ども視点の文章にする。
- ④ 持って行く場所や状況に応じて、内容や量を調節する。

サポブ作成のコツ

- 書く内容について、子どもと話し合うことも出来ます。子どもの好きな楽しいレイアウトと一緒に考えてもいいですね。
- 本人にも分かりやすいように、写真やイラストを入れてもいいですね。
- パソコンで作成すると、変更や保存がしやすくなります。できること、苦手なことはどんどん変わっていきます。変わった項目は入れ替えて、少しずつ新しくしていくとよいでしょう。

実際に使えるサポブに！

サポブがひとまず完成したら・・・

- 家族や友人に見せてみましょう。
- 他の人からの意見をもらって初めての人にも伝わりやすい書き方を考えましょう。
- よかった点、わかりにくかった点を聞いてみましょう。

活用するときの注意

本人が活用する場合

サポートブックには、大切な個人情報がのっています。

子ども本人が管理をするときは、置く場所やカバンの中に入れる場所を決めるなど、なくさないように管理の工夫をしてみましょう。



学校や園に見せる場合

- 学校や幼稚園、保育園の先生に、気になる事として伝える時にも使うことが出来ます。
- 見本の書式以外にも、学校や園に特有な場面についての気になる点だけを、短くまとめた形式を作ってもいいですね。



やってみよう！！

では実際にサポートブックを作ってみましょう。

サポートブックの基本項目はたくさんあります、見てもらう人や時間、活動内容によって必要な項目は違ってきます。

数時間、ボランティアに預かってもらう場合をイメージして書いてみましょう。

どのような項目が必要になりますか？

次回

- 次回：11月27日(金)です。

- ホームワーク：
サポートブックをご家庭で書けるところまで書いてみてください。
次回のグループワークで見せ合ひましょう。

